

# 「正しい知識」を持って「正しく怖がる」

～自分たちで作った学びの場～

前橋工業高校保健委員会と生徒会有志による  
原発問題と健康についての学習会



前橋工業高校の保健委員会と生徒会有志が、昨年 9 月に放射線量測定やアンケート調査を行い、その結果を踏まえて原発問題と健康に関する自主的な学習会を開催しました。定期テスト直前にもかかわらず 65 人の生徒が会場を埋めて熱心に学びを深めました。新生徒会役員 3 人（2 年生）と先生方から取り組みの様子をお聞きしました。

## きっかけは？

県内のどの学校にも「学校保健委員会」という組織があって、生徒の健康（タバコ・歯・食事・ストレスなど）に関わるさまざまなことをテーマに、生徒・保護者・教師・校医などが一緒にいろいろ検討しています。

山田房枝先生（養護教諭）：今年のテーマは、もうこの原発問題以外にはないだろうと、校医さんなどにも相談して決めました。最近、生徒会の動きもいいので保健委員会と一緒に学校全体で取り組めたらいいねと提案してみました。始まってみたら、生徒たちはほとんど自分たちで調べて、どういうふうにやりたいかも言ってくれて、教師は場を与えて時間を提供しただけ。ほんとうにいい勉強をさせていただきました。



山崎ましか先生(左)、山田房枝先生(右)

## 生徒たちは提案をどう受け止めた？

静貴也君（生徒会長）：以前結城市に住んでいて友達もいました。茨城にも放射能が来ていると聞いて、もうこれはやばいかもしれないって。放射線を自分で測って少しでも茨城の人にも安心してもらえればと思いました。

町田裕介君（会計）：山岳部員で、赤城山をトレーニング場にしています。沼から高い放

射線が検出されるとニュースで取り上げられていたけれど、やっぱり自分の目でちゃんと確かめないと信用できないということもあって、これはいい機会だと思いました。

関大輝君（副会長）：放射線の影響って目に見えないし、何十年後に出てくるかも分からない。自分の身体だけでなく、将来結婚して自分の子どもたちにもずっと影響が残るんじゃないか、そういう不安がある、そんなことを考えました。

## 測定・アンケートで見てきたことは？

まずは学校の中の放射線量測定をしようと、県のスポーツ健康課から測定器を借りました。きちんとした測定でないと問題もあるので、事前に説明も受け、9月5日から9日まで測定。植え込みで 0.1~0.2 $\mu$ Sv/h、その他は平均

して 0.05~0.08 $\mu$ Sv/h という数値でした。

定時制でも山崎ましか先生（養護教諭）が理科の小柏洋輔先生にお願いして 12 日から 15 日の授業で測定を実施、同様の数値を確認しました。結果は模造紙で生徒玄関に掲示もしました。

次に取り組んだのが全校生徒と PTA 役員対象の「原発事故に伴う健康不安に関するアンケート」調査。内容は先生方の助言を受け

ながら生徒たちで決めたもので、①放射線に対する不安の変化と理由、②放射線対策の変化、③放射線の影響への不安、④放射性物質や原子力について調べたか？などについて原発事故直後と6ヶ月経過した9月時点と比較しての調査としました。

結果は①事故直後「非常に&少し不安」がおよそ50%だったのが「安全との報道・意識が薄れた」などの理由でおよそ25%に。②放射線対策で「放射線量を気にする」が45%だったのが「何をしたらよいか分からない・以前と変わらぬ生活へ」で54%へと変化。③「身体への影響・自分の子どもへの影響・景気や就職への影響・原発事故の今後」に対する不安が多かったが、④「調べていない」が86%にもなっていたのです。

### 「正しい知識」を持って「正しく怖がる」

測定やアンケートの結果を見た生徒たちは学習会の開催の必要性を一層強く感じたと思います。この取り組みの中心にいた一人、当時の生徒会長・西村佳祐君（3年生）から後日こんなコメントが寄せられました。「中学3年生の時に柏崎原発の見学に行っ



校庭の放射線量を測定する生徒たち

たとき、地震が来ても絶対安全と説明を受けていたが、今回の水素爆発によって放射線が放出され、大きな被害がもたらされたことに憤りを感じた。提案を受けたときは興味があったことだったので詳しく勉強しようと思った。測定では、国や東電がするようなことを高校生がこんなに簡単にでき、結果を瞬時に知ることができることに感動した。不安だけでもむやみに恐れなくても良いというような安心感を持てた。」

さまざまなマスコミ報道がなされる中で、事実を正確に知りたいという生徒たちの思いが、「正しい知識」を持って「正しく怖がる」という教室掲示用のポスターの言葉に表れて

います。生徒たちは、昼休みと放課後の限られた時間の中で「学習会」の準備に意欲的に動き出しました。講師の依頼、当日の展開、教室ポスター・図書室前の大型手書きポスターの作成、校内放送での案内などなど。

### そして9月30日の学習会は？

スタッフの心配をよそにあつという間に図書館は満席に。隣の教室から椅子を借りてもまだ足りない。進行はもちろんすべて生徒の手でスムーズに展開しました。

【講義1：原発のを知るために】は理科の中曽根知久先生から、放射線の基礎知識として「放射性物質・放射線測定・人体への影響・放射線の中で生きている・放射線を見る」などの解説。原発事故後、放射能に対する大きな不安を抱くようになった生徒たちには欠くことのできない科学的な学びになりました。

【講義2：原発って大丈夫？】は社会科の田中立仁先生から「チェルノブイリ原発事故がきっかけに・原発は不可欠？・原子力発電は本当に安いのか？・安全神話の崩壊」など、さまざまな角度からの解説と問題提起は、今を、そして未来を生きる生徒たちの「知りたい・学びたい」に答えていました。

生徒からの質問は、「細胞や遺伝子をどのように傷つけるのか？・被曝してしまった後の治療法は？」など人体への影響についての不安を如実に示していました。学習会後も残って突っ込んだ質問を続ける生徒もいて、スタッフの生徒たちは、仲間の「もっと、もっと知りたい」を引き出せたこの取り組みに確信を得たと思います。

その後10月27日に開かれた「学校保健委員会」では、自分たちで編集したパワーポイントを駆使した生徒たちのプレゼンテーションに、校医や保護者のみなさんから『素晴らしい！』の言葉が贈られました。

## 講師のお二人が受け止めたことは？

中曽根知久先生：3・11のときはまだ前任校で3年生の担任でした。国公立2次入試に向かう生徒がいて、新幹線に乗っているときだったがまったく連絡が取れなかった。その後避難所で過ごし、親に迎えに来てもらって群馬に戻れたのですが、結局入試は受けられませんでした。震災と原発事故で、人生とか命そのものとか心とかへの影響がありました。

生徒たちに依頼されたときには、知識を与えることだけでなく、生徒たちの成長を支援したい、それぞれの人生を“守りたい”という気持ちが一番強かったです。関わらせてもらって、私自身が生徒から学ぶことも実はたくさんあって、ほんとうに感謝しています。

田中立仁先生：生徒の持っている潜在能力というものかな。それをまた一つ痛感しました。正直言って、放っておいたのでは自発的に生徒からという力はまだ十分ではないですよ。教員と生徒が関わって、その中でどう仕掛けて、どう成長させるかを、今回よく見ることができた。もう一つ、普段から我々教員は生徒にいろんなボールを投げかけていかないとね。私が授業などで投げていたボールが今回投げ返されてきた。日常的に我々がどうボールを投げて、生徒たちに返してもらって勉強していくかということの大切さを改めて感じました。今回これだけやってきたのってすごい。ありがとうございました。

## 仕掛け人のお二人は？

山田房枝先生：私たちは、健康について情報を発信していかなければならない立場ですが、どんなことも最後は“健康こそ大事”ということに結びついていくと感じました。何が大事っていったって、自分の身体が大事…とい

ってみんなが集まってきたり、感動したり、そういうことに携わっていける仕事に就いてよかったなって。ほんと最初はこんなふうになるなんて思わずに始めたことなので。また違う形で続けなくてはね、新たな課題を見つけつつ…ですね。

山崎ましか先生：ここで初めて養護教諭の仕事に就いたのですが、いちばんびっくりしたのが、先生のポツという一滴が、パーッと広

がって勉強会の話も決まって、学校保健委員会も出来上がっていったことです。それからみんなで一緒にやっていたはずなのに、私には見えていないところでもどんどん広がりを見せていたことです。私も、生徒がちゃんと

成長していけるようなボールが投げられるようになりたいです。

## 3年生は偉大だ！

今回の取り組みを通して見えてきたことは？の問いに生徒たちは答えました。

「やっぱり3年生が引っ張ってくれたなって感じています。/偉大です。1年差なのに大人って感じがします。/いつもこんな感じでいいのかなー？っていう先輩が、すごい陰で努力してくれているんです（一同大爆笑）。/お手本にしなくては。」…新生徒会役員たちは、もう自分たちの時代を構想しています。

お忙しい中でお話をしてくださった松下繁一校長先生はじめ先生方、そして生徒のみなさん、ありがとうございました。生徒のみなさんが、自分たちの心の中の学びの要求を掘り起こし、確かな知識を身につけて行く姿に、学校の在り方を深く考えさせられました。

（文責：加藤彰男・写真撮影：長谷川陽子・写真とカット提供：前橋工業高校保健委員会）



「知りたい学びたい」生徒で満席になった学習会